



板木 正則 議員

質問 市内の交通安全対策について

市長 市で実施できうる対策を、優先順位を考慮して行っている

問 (1)市内の通学路や横断歩道などにおいては、交通安全指導員、学校、PTA、各町内会の方々の活動や取り組みによって、市内の児童・生徒が安心して通学できる環境がつけられており、大変素晴らしいことだと思います。

しかし、最近よく聞こえてくるのが、町内会の役員の高齢化や担い手不足等による、負担の増加があるかと思えます。児童・生徒の登校日に合わせての見守り活動はとても大事な活動であると考えます。

今後このような活動を安定的に継続・維持していくために、市として交通安全指導員の増員などで、協力できる部分があるのではないかと考えますが、市としての考えをお聞かせください。

(2)追分2丁目グリーンヴィラ団地内を通っている、桔梗新道線及び周辺の追分64号線・84号線などについて、交通量の多さと通過する車両の速度の速さから危険を感じるの音が継続してあります。

当該地区に横断歩道の設置要望の協議等はしているとのことでした。

住宅街の中を通る市道が幹線道路のバイパス道的に使われている道路での交通安全に関して、市の方針や対策があればお聞かせください。

答(市長) (1)地域の交通安全運動に対する市の支援については、町内会をはじめとする地域の皆さんによる児童・生徒の見守り活動は、児童・生徒の安全確保はもとより、ドライバーへの注意喚起犯罪の未然防止に多大な効果を発揮することから、引き続き、ご協力をお願いしたいと思っています。

市では、9人の交通安全指導員を採用し、信号機や横断歩道が整備され、比較的交通安全環境が整っている箇所、交通量が多いところや、防犯上の観点を含め、必要性の高い箇所へ配置しています。また、名称は同じ交通安全指導員ですが、ほぼボランティアで、地域の交通安全事業などで交通安全指導を行っていた方が30人おり、交通安全運動の期間はもちろん、普段からできる範囲での立哨をお願いしています。

地域の皆さんにも、交通安全運動期間での立哨をお願いしており、町内会によっては、毎日朝夕の立哨を行っています。町内会活動と同様、こうしたボランティアに携わっていただいている人たちの

高齢化や成り手不足といった問題があることも承知していますが、あくまでもボランティアの精神に成り立っている活動ですので、市が人員を確保して配置するというのではなく、PTAの若い方々を含め、可能な範囲で行っていただきたいと考えています。

(2)横断歩道の設置については、通学路としての活用という観点で、町会要望や通学路交通安全対策プログラム会議の中で出されていますが、平成28年度に地域の皆さんの立ち会いのもと行われた現地確認では、函館中央署の担当から、「事故を誘発する可能性が高い横断歩道となり、設置できない」旨の回答がありました。

市道の交通安全対策としては、地域の要望などを踏まえ、ガードレールやカーブミラーの設置などのほか、注意看板による注意喚起などの市で実施できうる対策をその必要性や効果、優先順位などを考慮しながら行っています。

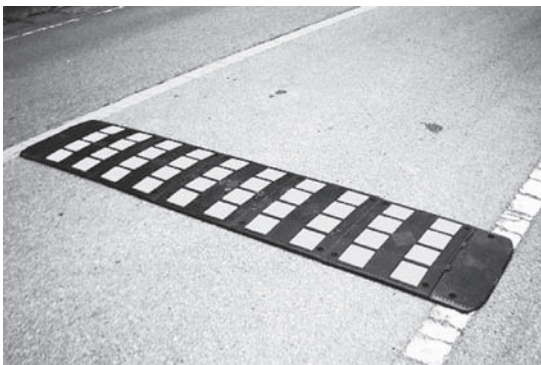
しかしながら、横断歩道の設置や速度規制といった規制標識の設置などは、公安委員会の権限による場所ですので、本市としても必要に応じて警察側との協議を行うことはもちろん、取り締まりの強化などについても要請してまいります。問 浜分小学校グラウンド入口付近の横断歩道にも交通安全指導員の配置が必要と考えます。

答(総務課長) ご質問の箇所は、横断歩道が設置され、ある程度の交通安全環境は整っていますが、やはり交通量が多いという認識ではあります。今後、配置できるかどうかは検討してまいりたいと思いますが、成り手不足という問題もありますので、ご理解いただきたい。

問 速度を抑制するという考え方の一つとして、減速帯の設置はできないか。

答(総務課長) 警察との協議は難易度的にはそれ程高くないかと思っておりますが、近隣の方々への騒音などの面も考慮しなければなりませんので、そのような面の難易度が高くなるかなと思います。

答(土木課長) 当該地区の市道の道路幅を考えると、抑制にはなるとは思いますが、振動などの問題で難しい部分があります。



安全対策に効果的なゴム製減速帯

